

<東大阪市>

1. 学校図書館に関する具体的方策や行政からのサポートについて

- ・WIN 書庫を活用した学校図書館蔵書管理システムの運用
- ・小・中学校に週1回、図書館司書の配置
- ・小学校における、公立図書館との連携

2. 学校図書館関係の組織の形態と活動について

市教育研究会に東大阪市立小・中学校図書館教育研究会がある。小学校、中学校それぞれの総会・研修会・読書感想文(感想画)審査会を実施した。

3. 図書館教育研究会の活動について

◎小学校 総会および講演会(書面開催)

◎中学校 総会および研修会(書面開催)

◎読書感想文合同審査会(小・中学校)

*令和3年度 読書感想文応募作品数

- ・小学校 応募総数 6,070 作品
(低学年) 自由読書 1,114、課題読書 134
(中学年) 自由読書 2,053、課題読書 236
(高学年) 自由読書 2,295、課題読書 238

- ・中学校 応募総数 7,928 作品
自由読書 7,721・課題読書 207

- ・府コンクール
自由読書 佳作 中学校1作品

◎読書感想画合同審査会(中学校のみ)

*令和3年度読書感想画応募総数

- ・中学校 応募総数 19 編
内 10 編を大阪府コンクールに応募
- ・府コンクール
優秀賞 自由読書 1 作品
優良賞 自由読書 1 作品・指定読書 2 作品
佳作 自由読書 1 作品

◎小学校教科研究会研修会(書面開催)

◎小中合同研修会 中止

4. 学校図書館の蔵書管理方法について

市立全小中学校でデータベース化し、バーコードによる貸出。

<柏原市>

1. 学校図書館に関する具体的方策や行政からのサポートについて(例年)

- ・読み聞かせのボランティア派遣
- ・学校司書の配置
- ・柏原市立図書館との連携 図書館司書による出前授業
- ・ブックトーク
- ・本の修理講座
- ・図書館のお話
- ・放課後子ども教室での読み聞かせ等

2. 学校図書館関係の組織形態と活動について

- ・市教育研究会に図書館教育部会がある。
月1回、小中の担当者が集まり、会議や交流会、読書感想文関連の作業、研修等を行った。

3. 図書館教育研究会の具体的な活動について

- ・読書感想文審査会
《小学校》 2263 作品
低学年 自由図書 295 課題図書 130
中学年 自由図書 651 課題図書 296
高学年 自由図書 718 課題図書 173
《中学校》 394 作品
自由図書 275 課題図書 119
- ・読書感想画
読書感想画については、応募がなかった。
- ・小中交流会
ディスプレイの方法、整理の仕方、読書活動の活性化、市図書館との連携などについて各校の取り組みを紹介。
- ・学校司書による研修会(来年度に延期)
- ・市内学校司書の連絡会

4. 各学校図書館の蔵書管理方法について

- ・図書原簿(契約時点で書店がデータ作成)による。
- ・データ管理をしている学校もある。
(独自にバーコードで貸し出し業務の管理)

<八尾市>

1. 学校図書館に関する具体的方策や行政からのサポートについて

- ・各小学校に週 16 時間、中学校には週 8 時間、図書館サポーターが配置されている。
- ・市立図書館からの長・短期貸し出しを利用できしており、また、市立図書館図書ネットによる検索、予約、新着図書の紹介など、連携を進めている。

2. 学校図書館関係の組織の形態と活動について

- ・市教育研究会に学校図書部会があり、各小中学校から代表が集まり、会議、読書感想文選定、実践報告、研修会と計画的に行っている。

3. 学校図書館の具体的な活動について

- ・読書感想文審査会
(読書感想画は、募集せず。)
- ・市教研秋季分科会

4. 【北山本小学校による実践報告】

北山本小学校では、図書館サポーターや図書委員会など様々な活動と連携して、児童の図書活動の活発化と効果的な学校図書館の活用をはかっている。以下、実践内容の取組みを紹介する。

① 図書プレゼントの応募

学校図書館の活性化の一つとして、「SENSEI よのなか学」を活用した。週刊少年 JUMP で連載中の『ONE PIECE』の学校図書館用のマンガのプレゼントに応募し、当選した。1校につき12冊のプレゼントと、編集部からのお手紙がついていた。編集部のお手紙から一部を紹介します。【「知識」とは！！即ち「過去」である！！——『ONE PIECE』に登場する図書館の館長・クローバー博士の言葉です。彼は図書館に集められた膨大な書物をさして「全人類にとってかけがえのない財産」だと語りました。『ONE PIECE』の作中にもたくさんの魅力的な書物が登場します。「Brag Men」「うそつきノーランド」「海の戦士ソラ」「おでん漫遊記」…うそのような真実から世界のおおきな過ち、敬愛すべき偉人伝や胸躍る冒険譚の数々！物語は夢となって私たちを航海へいざない、知識と見聞は武器となって生きる力を授けて

くれます。図書館にある古今東西の「過去」たちが、たくさんの経験と折りかさなって、子どもたちの「未来」をつくる。このたびの企画が、ほんの少しでも、その営みのお手伝いとなれば…】このように、様々な書物を通して、児童の世界が少しでも広がればよいと感じることになった。

② 貸出依頼システムの導入

本校では、これまでりいぶるの貸出依頼システムを活用していなかったが、2 学期より貸出依頼システムを導入した。

理由

- ・「借りたい」と言い出せる児童は、人気の本を手に入れることができるがなかなか言い出せない児童もいるので、皆に平等に本が届けるため。
- ・本の取り合いでのめんどろをへらすため。

児童や先生の声

- ・確実に借りたい本が手元に届くので、このシステムがあつてうれしい。
- ・題名・筆者などを書く練習になってよい。

③ 図書委員会の取り組み

- ・低学年への読み聞かせ(委員会の時間にリハーサルを行う)
- ・図書室の掲示物づくり(・おすすめの本パズル
- ・迷ったときはこれ！おみくじづくりなど)
- ・ミステリーブックづくり

④ 図書館サポーターとの連携(教科学習を支えるための図書活動)

- ・国語…同じ作者の本、教科書で紹介されている本、古典、詩、民話、伝記、など教科に合わせて学年でまとめて借りる。(特に、説明文教材のあとの「書く」活動に合わせた本は、大変使いやすい。)
- ・総合(本校では人権みらい探究科)…障がい者理解教育にあわせて、盲導犬・聴導犬の本や手話の本を借りる。

様々な取り組みや6年間の読書時間の積み重ねにより、読書の習慣がついてきている。今後もたくさんの本と出会い、長文の本も読めるようになることが課題である。

以上